

平成27年度宮沢賢治記念館運営審議会会議録

1 開催日時

平成27年4月21日（火） 午前10時～午前11時30分

2 開催場所

花巻市矢沢第1地割1番地36 宮沢賢治記念館多目的ルーム

3 出席者

(1) 委員 6名（委員7名のうち）

中島健次会長 高橋則子副会長（会長職務代理者）

鈴木守委員 晴山ノリ委員 紺野佳子委員 多田章委員

(2) 事務局 4名

細川生涯学習部長 鎌田館長 牛崎副館長 宮澤上席主任

4 会議の概要

(1) 開会 鎌田館長

(2) あいさつ 細川部長

(3) 議事 中島会長が司会進行

①平成26年度事業報告について

牛崎副館長：資料説明

紺野委員：セミナーについて、大変いい事業と感心している。この事業が始まったのはそんなに前ではないです。一般の方々も多く来ているようです。参加者があるかないかは別として、いつかは私たちもぜひという気持ちにさせてくれる。たいへんよかったですと思います。

私事だが去年の9月の岩手県の女性退職者の集まりで出前講座を牛崎さんにお願ひしました。変化が詰まった宮沢賢治のことを知らなかった、初めてだという方がたくさんありまして、花巻だけでなく県外にも受けてみたいという方がいるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

牛崎副館長：今日の日日新聞にもふれあい出前講座のことが載っていてレクが人気だということでしたが、市内での出前講座というのは多いです。市外は対象外です。

細川部長：「出前講座」という枠組みの中では違いますが、特別にそういった団体あるいはそういった会合の機会に講演してほしいとかこういう内容を教えてほしいとかあればそれはご相談いただければ課で対応し、体と日程が空けばそういった対応もできると思いますので、そういった要望があれば随時承りながらスケジュールが許す限り対応しますので、ぜひご紹介いただければと思います。

②平成27年度事業実施計画について

牛崎副館長：資料説明

細川部長：今年課題にしていますのは、先ほど館長も言いました所蔵されている賢治の3千数百枚の原稿があり、賢治研究の原本になるものです。でもこれは物理的な紙ですので、いずれだめになるという状況が見えています。

そういった中で特別展示室の話がありましたけれども、生原稿をもろに出せないことが多々あるわけですが、その辺の考え方でどうか現在の保存状況はこれでいいか、今後これをどうしていけばいいかということを賢治記念館として学術的な視点を踏まえて整理まとめて今後どういう方針で保管保存あるいは公開していくのかをじっくり関係の皆様方とも相談をしていきます。

目立たない部分ではありますけれども、リニューアルを契機に着実に進めてまいりたいと思います。今までは鍵をかけて保管していただけというのは否めない、それは大いに市としても反省しまして決意を新たにしているところでございます。

中島会長：重要な話だったが今回の特別展は「銀河鉄道の夜」の草稿でしたか。

牛崎副館長：今回はすべて複製の原稿です。

中島会長：例えば研究者の方が見たいといえば特別に見せたりしているのですか。

牛崎副館長：リニューアルの監修者会議というのを9回やってきましたけれども、自筆の原稿の扱いをどうするのかということについては大きな議題になりました。まず取り扱い要領をはっきり定めるべきだとのことで何回か賢治まちづくり課の考えと監修者の考えのやりとりを進めているところです。

保存方法を基本的にどのように進めていくのか、26年度の段階で記念館としては県立博物館の学芸員さんに収蔵庫を見ていただきました。黙っていても原稿用紙のものは消えていくということでしたので、あり方について状況の検査と温度記録を元に3月に指導を受けてところでした。収蔵庫に置くべき除湿機や加湿器の見本をいただきました。

また、保存方法も中性の箱に入れ替えるべきだという非常に細かい指導を受けています。27年度は学芸員も来ましたのでそのやり取りまたは専門的な研修等も受けまして、今年度具体的な除湿機とか整備面での予算がついておりますので、具合的に検討していく時期に入りました。紙自体は脱さん処理が必要だということでした。字が消えつつあるようです。

そのため、以前にデジタルで画像を取り込んでおりますので、現在はその印刷したもので対応しています。本物を出してきて写真を撮るようなことはしておりません。

中島会長：非常に難しい問題ですね、保存と公開とね。しかし奈良平安の古文書は木に書いているから近代のものは逆に弱いなどというのはありますね。生原稿の迫力はすごい。同じだけれども感動が全然違うということを含めても保存と公開は難しい。

細川部長：特別展示室という形で、前の企画展示室を変えたのは期間限定でも生原稿をお見せできればという思いで企画展示室を特別展示室にしました。特殊なケー

スもガスを充填できる特殊なケースを用意していますので、本物を展示できるような準備はしてありますが方針を固めないといわずらにやれないということで、そのことについては会長さんからお話があったとおりで、充分検討や議論を深めた上で、整備して公開できるよう進んでいければと思っております。

紺野委員：宮沢賢治は世界から注目されていますので、特に外国の方々は関心を持って見に来たときに花巻の文化財に対してお粗末なわけにいかないですね。

高橋委員：私たち宮沢賢治記念館運営審議委員ということで、今、賢治まちづくり課という部署がありますよね。予算を獲得したりするための課なのでしょうけども下に下がってくると色んな記念館や賢治〇〇と肩書きの方が出てきたり宮澤家が出てきたりとか錯綜して最後は市でやることなのでしょうけども、市の職員は変わりますのであてにならないのではないかと私は思います。

だから長い目で見て記念館をちゃんとやっていくためには宮澤さんがきちんと取り組んでいったらいいじゃないかと私は思います。

結局今のような形で、賢治まちづくり課というのができてから、そこが窓口にしてちゃんと予算が取れるようになったんだろうとは思いますが、充分予算が取れているようには感じられませんが、市はこれからも賢治まちづくり課を残していくのでしょうか。学会とかも出てきますよね。私はなんだかわからなくなる。

細川部長：まず1つは賢治まちづくり課というのができた背景があるのだろうとは思いますが。この先もずっとあるかということでしたが、必ずしもずっとではないと思います。

記念館はもともと教育委員会の教育機関で本来は独立した館でした。花巻の大事な財産としての宮沢賢治というものもあり、一部にはそれを観光に使うのはいかがなものかという意見もある中で、結果として花巻市は宮沢賢治という先人偉人を観光の目玉的な形でネームバリューを使わせていただいてやってきたというのがあって、色んな行事もバラバラであったわけです。

その中で「賢治まちづくり委員会」というのができまして、賢治の関係団体がみんな入っている会ですけども、そういう中で賢治記念館あるいは賢治に興味を持った人好きな人が集まって花巻を目指して訪れるときにどうもトータルとしての花巻市内の雰囲気づくりが充分なのかという意見や議論があって、こうスポット的に観光サイドが看板や案内板を作ってみたり単発的にやってきたりということがあるので、それを何とかしなければということでまちづくり委員会ができそれを何とか事業化していく、賢治さんの香りあふれるまちづくりとかたちで、観光から離れて賢治まちづくり課の形になったわけです。主体的に動いている状況ではありますが、委員さんご指摘のとおり、それは、どういうものかよくわからないという話になっている部分もあるのだと思います。

従いまして、いずれこれは私の私見なので市の全体のことを私の一存だけで決められない部分もございまして、将来的には館は館で賢治さんの考え方や

方向性を持ってやっていく、そしてイーハトーブ館の学会さんとの連携を図りながらやっていく部分と観光的なルートや視点はちがうということでまた整理していかなきゃないという部分は出てくると思いますので、いろいろ出てきてなんだかわからないという点はあると思います。

まちづくりという一見よさそうで正体不明な言葉ですけども、どうもみんなに都合よくなっている部分があり、賢治まちづくり委員会はやはり賢治の団体さんがみんな集まってどうしましょうかという部分をやっているのが主旨だと思います。

高橋委員：みんな振り回されている感じがする。

中島会長：記念館もイーハトーブ館も童話村も全部設立の趣旨が違う。そして賢治まちづくり課ができる前は色んなセクションで統一のない形でやってきた。

賢治まちづくり課ができたからといって、今も結構ばらばらでそれぞれ気を使っている。すべてが混然となった形でのを少しでも統一をできればと始まったと思いますが、今逆にまとめるのが困難。賢治記念館は象徴としてきちんと守るべきものは守ってほしいというのはあると思います。

紺野委員：社会教育の大事な機関ですよ。社会教育だったら生涯学習ですが、ちょっと足りいようなそこだけでも記念館は補助機関みたいに書いてあったような気がいたしました。

細川部長：補助機関には違いなくて、最近の流れで教育員会の流れでいわゆる市長部局のほうに生涯学習体育や文化が来たときに、博物館以外は市長部局に教育委員会から動いてきた。

教育機関には違いがないのに普通の市の公の施設みたいに、どこかの課にぶら下がったような館になっていた部分、印象を皆さんに与えていた部分はあったと思います。

このリニューアルを契機に組織のことですので急に教育委員会に戻るといってもいいけど、この場で決められることでもないの、いろいろタイミングとかあると思いますが、もしかすると戻るといって選択肢もないとも限らない。

リニューアルを契機に館の原点にかえて、市と館それぞれやっていけるような形にもう一度見直すような形で進めていければと思っておりました。

高橋委員：審議会の委員に大迫、石鳥谷、東和の賢治の会のメンバーが入るようになったので、一つにつながりを持っていければいいと思うが、実際はつながりがなくそれぞれ活動しているのでこれからどうなっていくのか非常に疑問に思っていました。もう少しすっきりわかりやすくしてほしいと思います。

今記念館に副館長さんがいらっしゃるから顔になって全部やってくれているからいいけれども、何かあったらどうしようと。顔になる方がもっといらっしゃればいいですね。

中島会長：人材の部分でね、彼じゃなきゃということでなく、これは行政の責任になるのかということでもなく、最終的には人ですからね。

外に出て賢治さんを語るという大事な部分で単なる観光ボランティアでは

なく、あるいは本当に深く勉強している研究者ではなくてという部分ですね。

各地域の団体の象徴しているひとつの施設ですから、強い立場でお話していただければと思います。

多田委員：記念館と胡四王山周辺の整備も大事だと思います。私、自宅が近いのでたまに散歩しますが、山の中に足を踏み入れる人もいます。ずっと奥にも道がありますのであまり人は行かないですがトイレ等も整備していますので、こちらの所管じゃないかもしれませんが。

鎌田館長：19日の一斉清掃のときに地元住民の方々が全部きれいにしてくださいました。雪の間に倒木があったりして市の担当に連絡したしもし間に合わなければやってやるからと非常にありがたいお言葉を頂戴していました。

中島会長：松くい虫はどうですか。

鎌田館長：今ちょうど確認作業に入っているようです。

中島会長：あまりみつもなければ市に別のルートで矢沢振興会から話していました。景観がとてもいいところなのでね。

③リニューアルオープンについて

牛崎副館長説明

説明後実際に館内を見学し、解散。